

二次避難による 被災者の無力化と地域コミュニティ離散

雄勝町の雄勝地区を考える会 / 宮城大学 特任助教 阿部晃成
2024年3月25日

自己紹介

阿部晃成（あべあきなり）

- 宮城県桃生郡雄勝町生まれ
（平成の大合併により石巻市雄勝町）
- 東日本大震災 当時22歳 現在35歳
- 一晩の漂流経験,復興まちづくりへ参画

所属

- 公立大学宮城大学 特任助教
地域に関わる人材育成プログラム担当
- 陸上自衛隊 予備自衛官補



目次



被災地域の避難所（最大3.4万人）

- 原発関連を除き、集会所など規模・設備ともに十全ではない

1.5次避難所（数百名程度）

- 石川総合スポーツセンター
- 産業展示館2号館、小松総合体育館
- 妻支援・妻介護が滞留

2次避難所（最大5,200人）

- 金沢市以南の旅館・ホテルなど
- 施設によって被災者の環境には大きな差がある



1. 能登半島地震 奥能登の現状

- ① 阿部の現地活動
- ② なぜ、静かな被災地なのか

2. 二次避難によるコミュニティ離散

- ① コミュニティがバラバラに
- ② その背景
- ③ 2ヶ月で2度の機を逸した

3. 活動から見えてきたこと

- ① 調査・確認方法
- ② 各地の地域コミュニティの現状
- ③ まとめ

1. 能登半島地震 奥能登の現状

阿部の現地活動

- 1月12~14日、19~29日
2月12~25日、3月9~25日
計4回45日石川県内で活動
(3月25日時点)
- 志賀町富来,輪島市門前,中心部
深見町,珠洲市蛸島,七尾市能登島
等を訪問。
- 炊出し、勉強会、住民会合を実施
- 非常に**静かな被災地**になっている

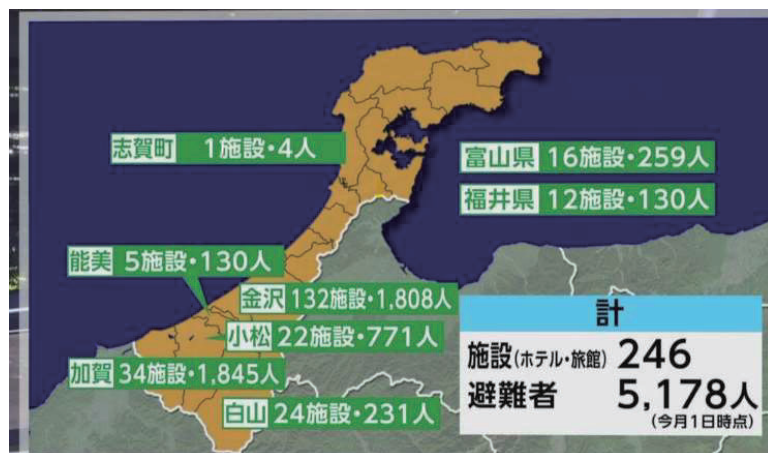


輪島市深見町

1. 能登半島地震 奥能登の現状

なぜ、静かな被災地なのか

- 震災後、大規模な二次避難が実施
奥能登を中心に約5,000名が県南へ
(奥能登・中能登計6万人の1割)
- 被災者が被災地に残っていない
瓦礫の片付けなども手つかずに
- 災害ボラも県の方針でストップ
3月中旬まではわずかなプロボノ
- 研究者もほぼ見ない



NHKニュース (2月1日時点)
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240204/k10014347171000.html>

1. 能登半島地震 奥能登の現状

なぜ、静かな被災地なのか

- 震災後、大規模な二次避難が実施
奥能登を中心に約5,000名が県南へ
(奥能登・中能登計6万人の1割)
- 被災者が被災地に残っていない
瓦礫の片付けなども手つかずに
- 一次避難所から1.5次避難所を經由
- 被害の少ない旅館・ホテルへ避難

被害の大きかった地域を中心に
被災地から被災者が不在となった

被災地域の避難所 (最大3.4万人)

- 原発関連を除き、集会所など
規模・設備ともに十全ではない

1.5次避難所 (数百名程度)

- 石川総合スポーツセンター
産業展示館2号館、小松総合体育館
- 要支援・要介護が滞留

2次避難所 (最大5,200人)

- 金沢市以南の旅館・ホテルなど
- 施設によって被災者の環境には
大きな差がある

1. 能登半島地震 奥能登の現状

なぜ、静かな被災地なのか

- 震災後、大規模な二次避難が実施
奥能登を中心に約5,000名が県南へ
(奥能登・中能登計6万人の1割)
- 被災者が被災地に残る
瓦礫の片付けなども
- 一次避難所から1.5次避難所を經由
- 被害の少ない旅館・ホテルへ避難

被害の大きかった地域を中心に
被災地から被災者が不在となった

3月16・17日の土日に
「避難後のはじめての片付け」
に来た方々を複数確認

被災地域の避難所（最大3.4万人）

- 原発関連を除き、集会所など
規模・設備ともに十全ではない

1.5次避難所（数百名程度）

- 石川総合スポーツセンター
産業展示館2号館、小松総合体育館
要介護が滞留

2次避難所（最大5,200人）

- 金沢市以南の旅館・ホテルなど
- 施設によって被災者の環境には
大きな差がある

2. 二次避難によるコミュニティ離散

コミュニティがバラバラに

- 震災後、大規模な二次避難が実施
奥能登を中心に約5,000名が県南へ
(奥能登・中能登計6万人の1割)
- 二次避難の過程で
JTBコールセンターを經由し、
戸別に二次避難先の案内
- 二次避難先への直行バスも
出発する日事に**避難先が変わる**

被災地域の避難所（最大3.4万人）

- 原発関連を除き、集会所など
規模・設備ともに十全ではない

1.5次避難所（数百名程度）

- 石川総合スポーツセンター
産業展示館2号館、小松総合体育館
- 要支援・要介護が滞留

2次避難所（最大5,200人）

- 金沢市以南の旅館・ホテルなど
- 施設によって被災者の環境には
大きな差がある

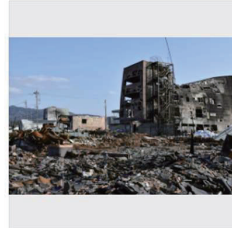
2. 二次避難によるコミュニティ離散

コミュニティがバラバラに

- 震災後、大規模な二次避難が実施
奥能登を中心に約5,000名が県南へ
(奥能登・中能登計6万人の1割)
- 二次避難に加え
親戚縁者、個別の異動もある
- 結果として、
輪島・珠洲では人口の3割が市外へ
被害が大きい地域からが多いか？

市外避難者が人口の3割に 輪島・珠洲、位置情報推計

3/18(月) 3:44 配信 171 171 171 171 171 171 171 171 171 171



地震による大規模火災でほぼ全域が焼失した石川県輪島市の「輪島朝市」周辺=16日

能登半島地震で大きな被害を受けた石川県輪島、珠洲両市の滞在人口をスマートフォンの位置情報によって推計したところ、3月1日時点の市外避難者が約9千人に上ることが、ソフトバンク系情報サービス会社「Agoop (アグープ)」の調査で18日、分かった。地震から2カ月たったが、両市の公式人口の約3割が市内に戻っていないとみられることが浮き彫りになった。

【写真】トトロ岩、左耳崩落か 石川県・輪島の海岸

推計には、個人が特定できないように匿名化した位置情報を利用した。人の流れが途絶える午後11時の発信データを滞在人口と仮定し、地震前日の大みそかから24年3月1日までの推移を割り出した。その上で両市がウェブサイトで公表している公式人口と比較した。

共同通信 (3月18日)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d0ddaa32bf36d8245d4bf5a2d4e9a256b9c4509d>

2. 二次避難によるコミュニティ離散 その背景

災害関連死・人員不足

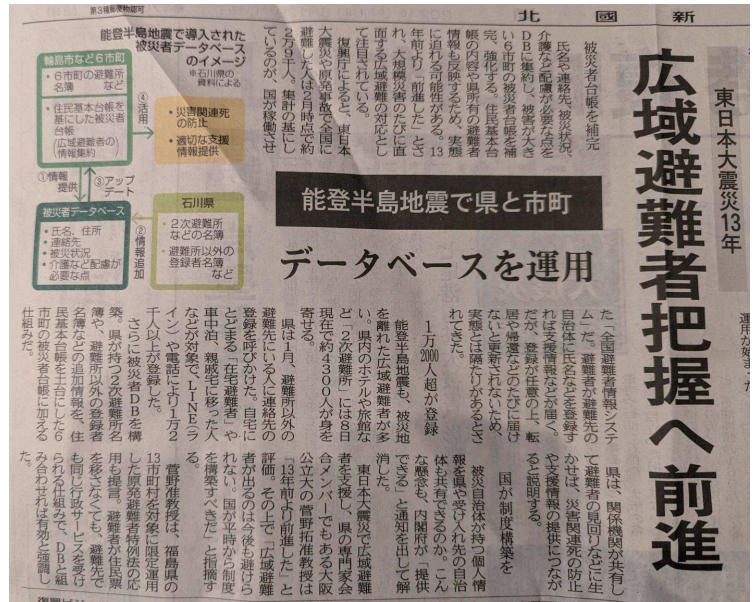
- 背景
劣悪な一次避難所や孤立集落
→多数の災害関連死発生を懸念
- ? : 人員不足
県が数名で二次避難の調整
被災市町・受入市町・民間(旅館)
各省庁・自衛隊 結果JTBの導入
- ? : 被災者台帳の機能不全
→現在構築中

東日本大震災13年
北国新聞 (3月13日)

2. 二次避難によるコミュニティ離散 その背景

災害関連死・人員不足

- **背景**
劣悪な一次避難所や孤立集落
→多数の災害関連死発生を懸念
- **？：人員不足**
県が数名で二次避難の調整
被災市町・受入市町・民間(旅館)
各省庁・自衛隊 **結果JTBの導入**
- **？：被災者台帳の機能不全**
→現在構築中



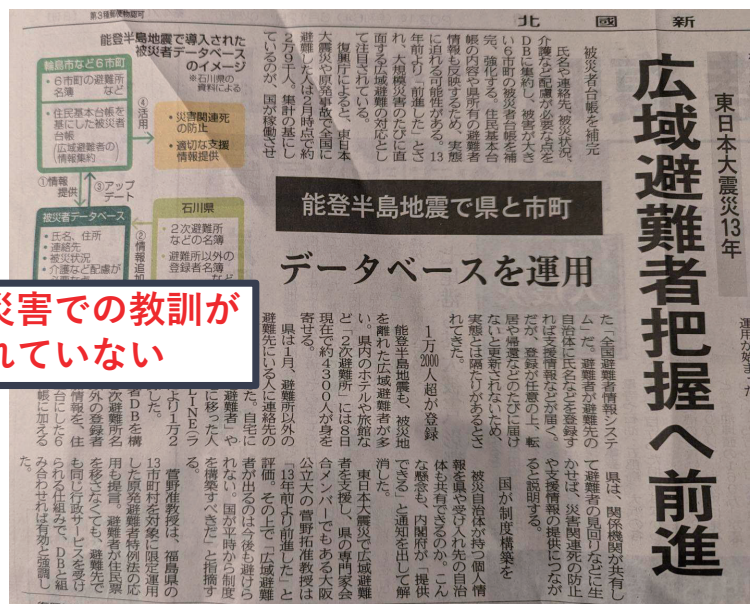
北國新聞 (3月13日)

2. 二次避難によるコミュニティ離散 その背景

災害関連死・人員不足

- **背景**
劣悪な一次避難所や孤立集落
→多数の災害関連死発生を懸念
- **？：人員不足**
県が数名で二次避難の調整
被災市町・受入市町・民間(旅館)
各省庁・自衛隊 **結果JTBの導入**
- **？：被災者台帳の機能不全**
→現在構築中

これまでの災害での教訓が
活かされていない



北國新聞 (3月13日)

2. 二次避難によるコミュニティ離散 指摘不足

2ヶ月で2度の機を逸した

- 1月中旬
二次避難がミステリーツアー化しているとの指摘
- 2月中旬
二次避難所の閉鎖方針の発表

2次避難先からどこへ行けば... 石川県が初の移転説明会、被災者の落胆と困惑

2024年2月8日 05時05分 (2月9日 11時30分更新)



今後の住まいなどの説明を受ける被災者

石川県内で今なお1万3千人以上が避難生活を送る能登半島地震で7日、県が2次避難者向けに初めて開いた説明会。北陸新幹線の敦賀延伸開業が迫る中、既に受け入れ期限が区切られた2次避難所もある。「振り出しに戻った」「お金が心配」。生活再建の道のりも見えないまま次の避難先を考えざるを得ない被災者には、落胆や困惑がにじむ。(小川祥、岩本雅子、西浦梓司、久我玲)

【関連記事】家族ばらばらでも「今はこの選択しかない」 2次避難所終了へ悩む被災者

中日新聞 2月8日

<https://www.chunichi.co.jp/article/850448>

2. 二次避難によるコミュニティ離散 指摘不足

2ヶ月で2度の機を逸した

- 1月中旬
二次避難がミステリーツアー化しているとの指摘
- 2月中旬
二次避難所の閉鎖方針の発表
- インフラのある県央県南が避難先
十分に調査は可能だった
- 3~7月までの仮設住宅入居が、
コミュニティ再接続の最後の機会

2次避難先からどこへ行けば... 石川県が初の移転説明会、被災者の落胆と困惑

2024年2月8日 05時05分 (2月9日 11時30分更新)



今後の住まいなどの説明を受ける被災者

石川県内で今なお1万3千人以上が避難生活を送る能登半島地震で7日、県が2次避難者向けに初めて開いた説明会。北陸新幹線の敦賀延伸開業が迫る中、既に受け入れ期限が区切られた2次避難所もある。「振り出しに戻った」「お金が心配」。生活再建の道のりも見えないまま次の避難先を考えざるを得ない被災者には、落胆や困惑がにじむ。(小川祥、岩本雅子、西浦梓司、久我玲)

【関連記事】家族ばらばらでも「今はこの選択しかない」 2次避難所終了へ悩む被災者

中日新聞 2月8日

<https://www.chunichi.co.jp/article/850448>

3. 被災地コミュニティの現在

調査・確認方法

- 地域の総区長・区長、残存住民
- 現地か二次避難場所にて聞き取り
- 地域を知る人に繋がった地域の状況
＝地域が離散している場合は、
わからないことだけが判明する
- 一次避難所が残存する地域や、
孤立→全町避難の地域などが混在
- 聞いたのは一部に過ぎない
ほとんどが“外浦”に属する



3. 被災地コミュニティの現在

中能登：志賀町（旧富来町）

- 2005年に合併 志賀町+富来町
旧富来町側の被害が大きい
- 富来地頭町（避難所残存）
被災世帯の半数程度が二次避難
移動先・連絡先の**7割は確認済み**
地区独自の情報発信を開始
- 富来領家町・高田（避難所残存）
被災世帯の半数程度が二次避難
移動先・連絡先の**確認不明**



上：<https://geoshape.ex.nii.ac.jp/>より作成
下：<https://minchizu.jp/ishikawa/shika.html>より

3. 被災地コミュニティの現在

奥能登：輪島市

- 沿岸部を中心に孤立集落が多数発生
住宅被害は大小様々
- 鴻巣地区深見町（全町避難）
全世帯が二次避難→一地区集中
水道未復旧も8世帯が帰還
移動先・連絡先の確認あり
区長会など動きあり
- 南志見地区全町（全町避難）
大半の世帯が二次避難→6箇所分散
3世帯6名が残存
移動先・連絡先は不明



3. 被災地コミュニティの現在

奥能登：輪島市

- 沿岸部を中心に孤立集落が多数発生
住宅被害は大小様々
- 町野町
大規模な二次避難→てんでばらばら
移動先・連絡先の確認なし
- 同大川地区
大規模な二次避難→てんでばらばら
数世帯が残存
移動先・連絡先の確認なし



3. 被災地コミュニティの現在

奥能登：珠洲市

- 沿岸部を中心に孤立集落が多数発生
津波被害があった地域もあり、
住宅被害が大きい地域も多数
- 高屋町
全町避難→数カ所に点在
移動先・連絡先の確認あり
- 正院町
大規模な二次避難→てんでばらばら
移動先・連絡先は確認無し



上： <https://geoshape.ex.nii.ac.jp/>より作成
下： <https://minchizu.jp/ishikawa/shika.html>より

市町村	地区	地区内避難所	二次避難形態	移動先・連絡先有無	みなし仮設再離散	地域活動
志賀町 旧富来町	地頭町	有 帰還世帯あり	てんでばらばら	一部あり 調査中・8割を補足	進行中	あり 地域主導の災害ケースマネジメント計画
	領家町	有	てんでばらばら	不明	不明	不明
	高田町	有	てんでばらばら	不明	不明	不明
輪島市 旧門前町	門前町	有	てんでばらばら	無し 個人情報保護の壁	進行中	不明
	七浦地区	有 帰還世帯あり	てんでばらばら	無し	不明	不明
輪島市	大沢町	無し	全町避難 一箇所集中	一部あり	進行中	なし
	鵜入町	無し	全町避難 不明	不明	不明	不明 (住宅被害が極端に少ない)
	深見町	無し	全町避難 一地区集中	ほぼ全数あり	進行中	あり 地域主導の住宅用地の確保など
	南志見地区	無し	全町避難 てんでばらばら	無し	不明	不明
	町野町	一部有	てんでばらばら	無し	不明	不明
	同大川地区	無し	てんでばらばら	無し	進行中	なし
	同金倉地区	有	てんでばらばら	ほぼ全数あり	不明	あり 地域主導の住宅用地の確保など
珠洲市	高屋町	不明	数カ所に点在	不明	不明	あり 二次避難先・現地での会合など
	正院町	有	てんでばらばら	不明	不明	不明

3. 被災地コミュニティの現在

まとめ

- 地域によって状況はさまざま
住宅、インフラ、避難状況…
- 地域コミュニティは概ね機能不全
被災市町、石川県、地域…
どこも状況を掌握できていない
- 最低でも〇〇町、可能なら〇〇区
単位の情報が必要だが、無い
- びっくりするほど人が居ない
3月16-17日にやっと見るように



3. 被災地コミュニティの現在

今後の懸念

- インフラ未復旧の地域に戻る被災者
何のための二次避難だったのか？
災害ケースマネジメントの重要性
- 仮設住宅の入居に躓く可能性
そもそもニーズが真正だったか？
- 大規模集約型仮設団地の運営問題
- 地域コミュニティと被災市町の
協働不能が常態化する可能性

